

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）**  
**2017年度研究【経過・成果】報告書**

研究代表者	所属部局・職	氏名		
	文学部・教授	石川 巧	印	
研究課題	江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究			
研究組織 (研究代表者・ 研究分担者) 2018年3月現在	所属研究機関・部局・職	氏名		
	立教大学文学部・教授	石川 巧		
	立教大学文学部・教授	金子明雄		
	立教大学文学部・特任教授	川崎賢子		
研究期間	2017年度 ～ 2018年度			
研究経費※ (上段：支出金額)	2017年度	2018年度	年度	総計
	3,484,215 円			3,484,215 円
(下段：採択金額)	3,495,000	2,505,000		6,000,000 円

※1円単位で記入

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター運営委員として活動するメンバーのうち日本近代文学研究者3名が集い、本学図書館が管理する江戸川乱歩の旧蔵書籍・資料をよりよい状態で保存・公開するための方法を考究するとともに、それらを活用した研究を行うものである。特に本研究がめざしているのは、日本近代における探偵小説の生成と発展過程を大衆文化の隆盛という観点から分析・検証することである。日本近代における探偵小説は雑誌・映画・テレビといったメディアの発達と深いつながりをもっている。(1) 犯罪学・法医学・性科学・心理学を始めとする隣接諸科学を吸収していること、(2) 1920年代以降の急速な都市化と社会状況の変化、モダニズム文化を鮮やかに体現していること、(3) 語り、描写法、人物造型、プロットの構成といった小説表現のあり方に新風を吹き込み、多くの作家に影響を与えたことなどの点で、江戸川乱歩の旧蔵資料を用いた探偵小説研究は人文・社会科学における広汎な専門領域と接続する課題である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 江戸川乱歩 } { 探偵小説 } { 資料調査研究 }

## 研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

## 1 国際研究

近年、乱歩研究は海外においても注目されつつある。「乱歩コンファレンス」を起点に始まった日本とアメリカの研究活動はすでに 20 年近い歴史を重ねているし、2016 年 10 月にはパリ日本文化会館とパリ・ディドロ大学において国際シンポジウム「Edogawa Ranpo oules labyrinths de la moder-nité japonaise (江戸川乱歩あるいは近代日本の迷宮)」が開催されている。企画者のひとりであるジェラルド・プルーが「1970 年代に入ってから、大衆文化の再評価、文学理論の中の読者論、視覚論、ジェンダー論、ポストコロニアル理論、カルチュラル・スタディーズなどの諸理論により、乱歩の重要性とモダニティが再発見・再評価されるようになったのは、先ずは、アメリカと日本であった。今回のシンポジウムは、以上の変遷をもとに、また、没後 51 年目に、日・米・欧の三つの視点を交差しながら、江戸川乱歩という人物、その作品、その背景とディスクールの再評価の契機となった」(『江戸川乱歩、巴里にやって来た。』(『大衆文化』第 16 号、2017 年 3 月)と評価するように、乱歩の存在は欧米においても大衆文化やモダニズムとの関連において再評価されつつある。本研究に RA として参加している落合教幸は同国際シンポジウムに参加して海外研究者との交流を深めるとともに、『怪人 江戸川乱歩のコレクション』(2017 年 12 月、新潮社)の共著者として江戸川乱歩邸の資料に関する情報発信に務め、国際研究に大きな貢献をしている。

## 2 野村胡堂記念館との連携

捕物作家クラブの創設者である野村胡堂と探偵作家クラブの初代会長である江戸川乱歩は生涯にわたって交流を続け、お互いの作家的営為を認め合うとともに、捕物小説、探偵小説それぞれのジャンル形成、読者拡大、新人作家の育成に尽力した。2017 年 12 月 12 日から 2018 年 3 月 18 日にかけては、岩手県紫波町にある「野村胡堂・あらえびす記念館」において企画展「野村胡堂と江戸川乱歩」が開催されたが、本研究メンバーの金子、石川、並びに大衆文化研究センター助教の丹羽みさとがそれぞれ企画展を訪れて同記念館学芸員の協力のもと、書簡、記録文書、雑誌、書籍などの調査を行った。旧江戸川乱歩邸に所蔵されている江戸川乱歩宛の書簡に関しては比較的容易に内容を把握することができるが、江戸川乱歩から発信された書簡類に関してはいまだ知られていないものも数多くあるため、本研究に関する重要資料を入手することができた。また、本学大衆文化研究センターは「野村胡堂・あらえびす記念館」との協力を深め、お互いの資料貸出や共同研究を促進していくことで合意した。

## 3 未整理資料の調査

旧江戸川乱歩邸における未整理資料に関しては、RA の落合教幸が継続的に書籍、書類等の調査を行うとともに、2017 年 10 月から大衆文化研究センターの助教となった丹羽みさとが精力的に活動し、資料の閲覧がしやすい環境となった。共同研究メンバーである石川、金子、川崎もたびたび旧江戸川乱歩邸の書庫に入り、書籍、雑誌、書類等の調査を行った。その成果に関しては日本近代文学学会春季大会(2018 年 5 月・早稲田大学)で「江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究」と題するパネルで報告する。今年度の研究成果である「〈資料紹介〉江戸川乱歩未発表小説草稿「ダアキン氏小瘤」翻刻及び解題」をはじめ、落合が継続的に活字化している翻刻作業については、今後も『大衆文化』(大衆文化研究センター)に発表していく予定である。

## 4 共著の出版

SFR の共同研究は 2017-2018 年度の 2 年間でその成果をまとめなければならないため、研究書の出版をもってその報告に替えたいと考える私たちにとっては、2017 年度中に出版企画を取りまとめ、出版社との協議を行うとともに論文執筆者の選定を行う必要がある。そこで 2017 年 10 月に日本近代文学関連書籍を継続的に出版している複数の出版社に打診を行い、八木書店から快諾を得ることができた。執筆予定者に関しても選定を進め、2019 年 3 月に『江戸川乱歩を読む』(仮)を刊行することを決めた。

## 5 国際シンポジウム

事前の研究計画書では 2017 年秋に開催予定としていたが、共同研究の開始から数ヶ月では講演、登壇者の選定もままならないため、開催日を 2018 年秋に移し一年の時間をかけて準備することにした。現段階で登壇者候補の名前がほぼ出揃い、テーマ等についても固まりつつある。今後は大衆文化研究センターが窓口となった海外研究者の受け入れなどについても検討していく必要があるだろう。

研究【経過・成果】の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

- 金子明雄 記憶すること・忘却すること・物語ることー芥川龍之介「疑惑」を手がかりに  
後藤隆基編『〈3・11〉後の表現を考える』立教大学日本学研究所、2017年9月、18-23頁
- 金子明雄 〈天才〉と〈犯罪者〉のあいだー大正期谷崎作品の人物造型をめぐるー  
『大衆文化』第18号、江戸川乱歩記念立教大学大衆文化研究センター、2018年3月刊行予定
- 川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ(7)「私の鷺」とロシアン・コネクション  
『図書』(818)24-29頁、2017年4月、岩波書店
- 川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ(8)田村泰次郎と彼女  
『図書』(821)32-37頁、2017年06月、岩波書店
- 川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ(9)上海租界の文化人とインテリジェンス  
[in Japanese]『図書』(823)31-37頁、2017年08月、岩波書店
- 川崎賢子 「上海の女」小論 『Intelligence』18号、20世紀メディア研究所、2018年3月刊行予定
- 川崎賢子 博多人形がつなぐ夢野久作と江戸川乱歩 『センター通信』第12号、2018年3月23日、1-3頁

② 図書

- 落合教幸 平井憲太郎・本多正一・落合教幸・浜田雄介・近藤ようこ『怪人 江戸川乱歩のコレクション』新潮社、2017年12月、全142頁
- 川崎賢子 共編著『定本夢野久作全集2』国書刊行会、(谷口基、沢田安史、西原和海と共編)国書刊行会、466頁、2017年5月
- 川崎賢子 共編著『定本夢野久作全集3』国書刊行会、(谷口基、沢田安史、西原和海と共編)国書刊行会、569頁、2017年10月
- 石川巧 単著『幻の雑誌が語る戦争』青土社、320頁、2017年12月
- 石川巧 編著『「月刊さきがけ」復刻版』三人社、2017年7月より刊行開始
- 石川巧 編著『「妖奇」復刻版』三人社、2016年11月~2017年12月、全10巻
- 石川巧 「戦時下の英雄伝説ー小谷部全一郎『成吉思汗は義経なり』(興亜国民版)を読む」(小澤実編『近代日本の偽史言説 歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー』勉誠出版、386頁、2017年11月所収)

③ シンポジウム・公開講演会等の開催

- 石川巧 シンポジウム「小劇場演劇の現在・未来」(2017年11月5日、立教大学)

④ その他

- 川崎賢子 20世紀メディア研究所 第117回例会・国際シンポジウム「貫戦期における日中映画」  
司会、ディスカッサント、1月27日・早稲田大学  
KAWASAKI KENKO Girls Debate:in Aoi Sanmyaku  
Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia(JSAA) University of Wollongong 27-30 June 2017  
Debating Democracy in Japan
- 川崎賢子 講演「李香蘭をめぐるインテリジェンス人脈」  
第20回諜報研究会(2017年9月30日、早稲田大学、第10回諜報研究会)
- 石川巧 講演「ひとりひとりの死を弔うためにー長谷川四郎「小さな礼拝堂」論ー」  
(韓国・東義大学校、2017年11月13日)